

レジメン名

Ph陰性ALL寛解導入療法

出典 JALSG ALL202

実施部署区分

入院 外来 処置

対象疾患

Ph陰性ALL(15歳以上25歳未満)  
進行・再発  
補助療法(術前・術後)  
初発

投与減量の基準

その他			

投与中止の基準

T-bil	2.0mg/dL以上		
Cr	2.0mg/dL以上		
その他			

1クール期間

総クール数

1クール

(次のクールまでの標準期間)

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1、d8等)
プレドニゾン	60mg/m2	経口		d1-7
デキサメタゾン(デキサート)	10mg/m2	輸液100mL	1時間	d8-14
ピンクリスチン(オンコビン)	1.5mg/m2 (上限2mg)	輸液100mL	30分	d8、15、22、29
ピラルビシン(テラルビシン)	25mg/m2	輸液100mL	1時間	d8、9
シクロホスファミド(エンドキサン)	1200mg/m2	輸液250mL	1時間	d10
L-アスパラギナーゼ(ロイナーゼ)	6000KU/m2	AQ5mLで溶解 輸液250mLに 希釈	4時間	d15、17、19、21、23、25、27、29
プレドニゾン	40mg/m2	経口		d15-28、 day29以降10mg/m <sup>2</sup> 3日間で中止
メトトレキサート(メソトレキサート)	12mg/body	髄注		中枢神経病変陰性 d1、8、22 中枢神経病変陽性 d1、8、11、15、22
ヒドロコルチゾン(ソルコーテフ)	25mg/body	髄注		中枢神経病変陰性 d8、22 中枢神経病変陽性 d8、11、15、22
シタラビン(キロサイド)	30mg/body	髄注		中枢神経病変陰性 d8、22 中枢神経病変陽性 d8、11、15、22

※ロイナーゼ投与時にショックがあらわれるおそれがあるので、皮内反応試験をロイナーゼ投与に先立って実施する。実施方法は以下の通り。  
 ロイナーゼ5000K.U.を日局注射用水2mLで溶解後、日局生理食塩液にて全量5mLとする。このうち0.1mLを注射筒で分取し、日局生理食塩液で全量1mLとした後、この0.1mLを皮内注射する(投与量:10K.U.)。皮内注射後15-30分間異常がないことを確認する。

1日投与順 (経時的にプレメタキーション・ポストメタキーション、 溶解液まで含む)
d1 ①メトトレキサート12mg+生食2-6mL(髄注) d1-7 ①プレドニン60mg/m2内服 分2 d8-14 ①(側管)デキサート10mg/m2+輸液100mL(60min) day8 ①グラネセロン3mgハック(15-30min) ②テラルビシン25mg/m2+輸液100mL(60min) ③オンコビン1.5+mg/m2+輸液100mL(30min) ④生食50mL(フラッシュ用) d9 ①グラネセロン3mgハック(15-30min) ②テラルビシン25mg/m2+輸液100mL(60min) ③生食50mL(フラッシュ用) d10 ①グラネセロン3mgハック(15-30min) ②エンドキサン1200mg/m2+輸液250mL(60min) ③生食50mL(フラッシュ用) d15-28 ①プレドニン40mg/m2内服 分3 d15、29 ①グラネセロン3mgハック(15-30min) ②オンコビン1.5mg/m2+輸液100mL(30min) ③ロイナーゼ6000KU/m2+注射用水5mL+輸液250mL(4hr) ④生食50mL(フラッシュ用) d17、19、21、23、25、27 ①生食50mL(ルート確保) ②ロイナーゼ6000KU/m2+注射用水5mL+輸液250mL(4hr) ③生食50mL(フラッシュ用) d22 ①生食50mL(ルート確保) ②オンコビン1.5mg/m2+輸液100mL(30min) ③生食50mL(フラッシュ用) d8、11、15、22※ ①メトトレキサート12mg+生食2-6mL(髄注) ②キロサイド30mg(髄注) ③ソルコーテフ25mg(髄注)